

## 持続可能地域共創プログラム

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	複数の地域において研究を同時進行させ、それらの成果を随時比較検討することにより、個別の地域への対応とより広い範囲の地域への適用を両立するアプローチは興味深い。	地域共創 PG の研究をご理解いただきありがとうございます。
	今後の日本社会にとって大変重要な研究であるが、4つのプロジェクトの連関が見えづらかった。	地域共創プログラムの目標とそれに至る道筋や、各プロジェクトがどのように寄与するかについて、機会あるごとに再検討し、わかりやすくなるようにいたします。
	今年からスタートなので、地域の持続性について包括的という点では、まだ予察的な成果の印象。	初年度であり十分な成果を紹介するまでには至っていませんが、次年度以降、年度計画と成果がわかりやすく紹介できるよう努力します。
今後への期待など	大学等と連携して地域の人材開発も同時に行うと、よりインパクトが高い。	各地域における大学や人文社会系の大学学部などと連携し、学生の方にも参加していただこうと努力しています。
	今後、プログラムが発展していく上での重要なポイントは、(1) 各構成部分の内容的・運用的な統合、(2) 各フィールドにおける独特な作業とより一般的な目標との関連性、であると考えます。	各構成部分の統合は各 PJ のみならず PJ4 でも行い、各地域の特殊性と一般化を意識して進めます。
	今後激甚化する災害に対応して、「地域の防災やレジリエンス」の課題も同時に解決できる方策に取り組むべきである。	「地域の防災やレジリエンス」の課題については、関連する戦略的研究プログラム・分野と共に取り組み方を検討いたします。
	ケーススタディの集積に留まらず、理論化・モデル化を目指すことを期待する。	具体的な場所で情報を集め、これをどのように展開し、実装までもっていき、地域に受容してもらえるかの手法開発や、どのように課題や解決の方策を一般化、理論化するかもこの地域共創プログラムの目標の一つと認識しています。